

## 長期モニタリング計画の見直し 整理状況

現在の長期モニタリング項目(H24.2時点)				各WG等での整理状況(現計画からの変更点) ※「-」は、現在までに変更不要と判断されたもの又は変更の議論がされていないもの。		
評価主体	評価項目	No.	モニタリング項目	評価主体	評価項目	モニタリング項目
海域WG (13項目)	I、IV、VIII	1	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測	→	-	<p>(モニタリング評価体制に係る整理状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海域管理計画モニタリング項目評価シートを長期モニタリング計画評価調書へと一本化する。</li> <li>・評価調書は、長期モニタリング項目を、①海洋環境、②魚介類、③海棲哺乳類、④鳥類、⑤地域社会の5つの分類に割り振る【資料3-1-1参照】。</li> <li>・長期モニタリング項目の評価については、海域WGにおいて、モニタリング項目ごとの個別評価に加え、分類ごとの評価及び全分類の総括をした総合評価を行う。</li> <li>・上記の新たな評価方式に対応した評価シートの作成及びシートに記載すべきデータの整理を行う。</li> </ul> <p>(モニタリング項目の整理状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、海域WGが評価を担当している17項目(評価主体が「担当委員」とされているNo.6、「科学委員会」とされているNo.22、⑧、⑨を含む)は、引き続き海域WGが評価主体として現状どおり継続の方向。ただし一部の調査手法等については引き続き検討。</li> <li>・No.③に係る調査対象種として、スルメイカを追加。</li> <li>・新たな長期モニタリング項目としてシャチの生息状況調査を追加。</li> <li>・新たな評価分類群「地域社会」に対応するモニタリング項目及びその評価については、海域WGと科学委員会での分担・整理が必要。</li> </ul>
	I、IV、VIII	2	海洋観測ブイによる水温の定点観測			
	I、III、IV、VIII	3	アザラシの生息状況の調査			
	I、II、III	4	海域の生物相、及び、生息状況(浅海域定期調査)			
	I、II	5	浅海域における貝類定量調査			
	I、IV、VIII	①	航空機、人工衛星等による海水分布状況観測			
	I、IV	②	アイスアルジーの生物学的調査(種組成、色素量(クロロフィルa量))			
	I、III、IV	③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握			
	I、IV	④	スケトウダラの資源状態の把握と評価(TAC設定に係る調査)			
	I、IV	⑤	スケトウダラ産卵量調査			
	I、IV、VIII	⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性			
	IV	⑦	トドの被害実態調査			
	IV	⑩	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析			
				海域WG	I、III、IV、VIII	シャチの生息状況の調査
エゾシカ・陸上生態系WG (12項目)	III、VI	7	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(林野庁1ha囲い区内外)	→	-	<p>エゾシカ個体数調整実施地区における植生回復の把握(森林植生 / 草原植生)</p> <p>No.7に統合</p> <p>長期モニタリング項目としては削除。調査は継続。</p>
	III、VI	8	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(環境省知床岬囲い区内外)			
	III、VI	9	密度操作実験対象地域のエゾシカ採食圧調査			
	III、VI、VII、VIII	10	エゾシカによる影響の把握に資する広域植生調査			
	III、VI	11	シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査			
	VI	12	エゾシカ越冬群の広域航空カウント			
	III、VI	13	陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況(外来種侵入状況調査含む)			
	III、VI	14	陸生鳥類生息状況調査			
	III、VI	15	中小型哺乳類の生息状況調査(外来種侵入状況調査含む)			
	III、VI、VIII	16	広域植生図の作成			
	III、VI	⑪	エゾシカ主要越冬地における地上カウント調査(哺乳類の生息状況調査を含む)			
	VI	⑫	エゾシカ間引き個体、自然死個体などの体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する調査			
				エゾシカ・ヒグマWG	III	※ヒグマについて、評価項目IIIに該当する新たな長期モニタリング項目を位置付ける方向で検討中。
河川工作物AP (2項目)	II、IV、V	17	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング	→	-	-
	III、V、VIII	18	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオシロコシの生息状況(外来種侵入状況調査含む)			
適正利用・エコツーリズムWG (1項目)	VII	19	利用実態調査	→		(9/27適正利用・エコツーリズム検討会議で、評価基準や評価指標等について検討)
担当委員	II、III、IV、VII	6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	→	海域WG	-
科学委員会 (8項目)	VII	20	ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査 ※ヒグマ検討会議休止時に科学委員会に移行	→	-	-
	VIII	21	気象観測			
	II	22	海ワシ類の越冬個体数の調査			
	III	23	シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因調査			
	III、VII	24	年次報告書作成による事業実施状況の把握			
	III、VII	25	年次報告書作成等による社会環境の把握			
	II、III	⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング			
	II	⑨	全道での海ワシ類の越冬個体数の調査			
				海域WG	-	長期モニタリング項目としては削除。ただし、引き続き年次報告は作成し、各種議論のバックデータとして把握・活用する。
				海域WG	-	同上。
				海域WG	-	-
				海域WG	-	-

※「評価項目」については参考資料4別表1を参照。また、「No.」は参考資料4別表3に記載された整理番号。